

4 保護者とつながる

事例 9

「僕の国の旗だよ」 ～母国を大切にしたい環境づくりにより安心感を～

5歳児 10月(在日1年4ヶ月)

こんなきっかけ
みつけたよ！

既製の万国旗を園庭に飾った翌日、A児のクラスの保護者が、「昨日万国旗を見て、A児のお母さんが、『母国の旗がない。悲しい』と言っていました」と教えてくださった。A児の保護者の気持ちを聞き、在籍する子供の母国を確認せず既製の万国旗を飾ってしまい、母国を大切に思う気持ちへの配慮が足りなかったと反省した。



A児のクラスには、外国籍の子供が複数いる。いろいろな国に興味をもてるようにと国旗の絵本を用意したところ、友達と一緒に絵本を見ながら気に入った国旗を見つけて描くことを楽しむ姿が見られた。そこで、子供たちが友達の国の旗に関心をもつきっかけにできないかと考えた。

A児の保護者には、園がどの国も大切にしていることを感じ、園に信頼をよせてほしい。

A児やクラスの子供たちには、自分や友達の母国に対する関心や親しみをもってほしい。



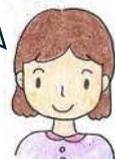
こうしたよ！

飾ってある万国旗を友達同士で見ている様子があったので、保育者が「A児の母国の旗ってどんな旗かな？」と、A児や周りの子供たちに向けて、何気なくつぶやいた。周りの子供たちとA児は関心を示し、国旗の絵本を持ってきてA児の母国の旗を探し始めた。

保育者は周りの子供たちと一緒に、国旗の絵の下に書いてある国名を読みながら探していると、



保育者の投げかけにより、A児にとっては“自分の母国”、周りの子供たちにとっては“クラスの友達の母国”の旗に興味をもつきっかけになりました。



B児が「あった。これだ!」と、A児の母国の国旗を指して声をあげた。その声に、周りの子供たちもA児も絵本をのぞき込んで見た。

その後、A児は絵本を見ながら母国の国旗を描いて、得意げに保育者に見せに来た。

運動会当日、子供たちが描いた旗を園庭に飾った。登園してきたA児の保護者は、子供たちが描いた母国の旗を見つけ、うれしそうに微笑んだ。



A児が描いた母国の旗を飾ったことで、保護者は、他の国と同じように母国が大切にされていることを感じ、ほっとしたように思います。



ここが大事!

母国を大切にした環境づくりが保護者の安心感につながります

誰にとっても自分の母国は、一番大切に心を寄せています。特に異国で暮らしている外国籍の人にとっては、母国に寄せる思いはひとしおです。

そのことを保育者が常に心にとめて周りの環境を見直し、母国を大切にした環境づくりをすることで、自分の母国(=自分)が大切にされていると感じます。それが、信頼関係を築くことにもつながっていきます。

コラム 保護者に伝えたい(園の取組や子供の様子)

外国籍の保護者は、自国で幼児期を過ごしたため、日本の幼児教育施設での過ごし方を知らないことが多いです。生活の流れ、行事等、会話や文書で伝えても、イメージしきれないことがたくさんあります。

そのため、実際の園の様子を見てもらうことが有効です。保育参観のような機会を活用すること以外にも、日頃の保育の様子を動画や写真に撮って送迎時に見せたり、保護者の都合がつけば、行事でない時でも、園生活を見に来てもらったりするとよいです。園での子供の様子が分かり保護者の安心感につながります。園としても、家庭とどのように連携するとよいか、保護者と共に考えていく機会になります。

